

ハーブティ

～女と男をかんがえる～ ハーブティ:「ハーブ (herb)」は薬草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

気持ちが通じるといい関係になれるかな

講座のテーマ 「コミュニケーションから考える男女共同参画」

自分の気持ちを正しく相手に伝えるために自己を表現することを学ぶ。

参加すれば分かるかしら

じゃあ、やってみましょうか

男女共同参画とコミュニケーション?

男女共同参画・言葉の意味は何となくわかるけれど、具体的にはどんなことをすればよいのだろう…??? 編集委員にして初心者3人が昨年10月に埼玉県と白岡町が共催で行った参画ステップアップ講座に参加してきました!

ステップアップ1

「男女共同参画社会、見る、聞く、伝える」～テレビや雑誌などを題材にして～

大正時代の『主婦の友』と現代の雑誌を比較した。現代の雑誌は性別の役割を意識してお互いの役割を理解していることを学んだ。その後グループに分かれ若い人たちへのメッセージを書き出した。



With Youさいたま事業コーディネーター
青木 玲子さん

青木玲子さんからのメッセージ

「新聞、雑誌などから『あれ?』と思うこと、違う視点を持つことが大事です。見ることは自由であっても変えていくためには意識を変える必要があります。男女共同参画とは一人ひとりではなく皆で考えるものです。世代を超えて、男女を越えて。」

ステップアップ2

協働 ～クッキング～

「作る、食べる、生きる」～災害!!家にある食材で一工夫～新しい味、発見してみませんか?～災害に出会った時、ある物をどのように工夫して非常時を乗り切るかを参加者がグループ内でコミュニケーションをとりながら料理体験をした。



車久美子さんからのメッセージ

“無いものを数えるよりも、あるものを見つけ工夫する”
「災害時に活かせるかどうか分からないけれど、こういう料理の仕方を知っていただき、時には、ふだんの料理に活用していただければうれしいです。」



管理栄養士
車 久美子さん

- メニュー・パバットパエリア : 乾物(さきいか、さくらえび)をカレー味でフライパンで炊く。
- ・サンマと根菜の煮物 : サンマかば焼き缶詰のタレを味付けに使い炊飯器で炊き上げる。
- ・芋ようかん : 炊飯器で作るりんご風味の芋ようかん。
- ・トルティーヤ : 天ぷら粉を薄く焼いて、佃煮やジャムなどいろいろな具を巻いたり・はさんだり。

ステップアップ3

「演劇的手法を使いコミュニケーションを学ぶ」～わたしの気持ちをつたえる～

見えないボール、大きさ、重さ、温度などを自由に設定して、それを誰かに渡すゲームをしたり、おじぎなどは使わずに、自分で考えた仕草や動作と地球語(どこの国の言葉でもないもの)であいさつをした。
遊びながら身体をほぐすことが心もほぐし、いつの間にか構えが取れていた。

参加者の声(アンケートから)

・最初は竹森さんのパワーに圧倒され、戸惑いと少しばかりの後悔を持って臨んだわたしでしたが、いつの間にか時を忘れ心も体もリラックスして楽しんでいました。

ステップアップ4

「演劇ワークショップで作るあなたの表現」

～わたしの気持ちをあらわす～

2人組で“おまんじゅう”という言葉(他の言葉は出さない)と表情、仕草でお互いの気持ちを伝え合った。また、2人から数人で、虫・木・花を表したり、工場・警察・病院を表現した。

まとめとして3つのグループに分かれ、家族というテーマで「父帰る」「教育ママ」「結婚の申し込み」を演じた。

参加者の声(アンケートから)

・自分のカラが取れて表現やコミュニケーションに照れがなくなってきました。だんだん楽しいと感じられるようになりました。
・言葉に代わるコミュニケーション、その新たな魅力に出会った気がしました。



テーマ「警察」

テーマ「木」



演劇デザインギルド
ウーマズアートグループ「ちっぷ・まむ」
蟹谷 玲子さん
演劇デザインギルド
ウーマズアートグループ「ちっぷ・まむ」
竹森 茂子さん

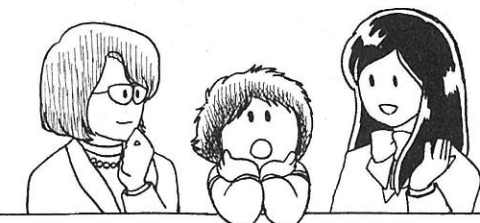
竹森茂子さん、蟹谷玲子さんからのメッセージ

「100の言葉を使っても細かい気持ちを伝えるには難しいこともあります。初対面の人とコミュニケーションを図りながら自分の気持ちを自由に表現することで人との関係を楽しく感じ、出会いやつながりをたいせつにする気持ちが生まれてきます。」

まとめ

今回の講座に参加して、相手と気持ちが通じ合うためには、言葉だけではなく色々なコミュニケーションの方法があることを学びました。

人とかかわりをたいせつにしたいと思うことから互いに相手を思いやり、尊重する気持ちが生まれます。そしてそれはわたしたちのふだんの生活から始められます。「日常生活をたいせつにして、お互いを思いやっ生きていけば男女共同参画と言う難しい言葉はいらないと思う」という一参加者の声が残りました。



小野寺 晴美 笠井 朋子 渡辺 あづさ
しらおか男女共生広報紙編集委員

ご意見、ご感想をお待ちしております。
町民活動推進課人権担当 内線 354